

## 北見赤十字病院 CKD シールの運用について

### 1. 目的

CKD シールを情報共有ツールとして活用し、腎機能低下時の医薬品適正使用に貢献する。

### 2. 期待する効果

- ① 過量投与の回避、禁忌薬の回避、腎毒性のある薬の回避、副作用の軽減
- ② 医療機関と薬局、薬局間、患者との腎機能情報の共有と連携強化
- ③ 医師および薬剤師等の腎機能低下時の医薬品適正使用に対する意識の向上

### 3. 運用方法

※北見赤十字病院で貼付した CKD シールのみ、この運用の対象となる。

#### ① 医師が行うこと

- ・ 対象患者に対して、患者用リーフレット（慢性腎臓病と CKD シールについて）を用いて CKD シールについて説明する。
- ・ CKD シール貼付に対して同意を得る。同意が得られた場合は、電子カルテに「CKD シール貼付に同意あり」と記載する。
- ・ 「シール貼付基準」に従い、CKD ステージと記入日を記載し、お薬手帳の表紙等にシールを貼る。

※シール貼付基準

- |                                                     |
|-----------------------------------------------------|
| ① $eGFR \leq 60 \text{ mL/min/1.73 m}^2$ が 3 ヶ月以上持続 |
| ② 3 ヶ月以上空けて 2 回以上の検査値を確認                            |

- ・ 調剤薬局にてお薬をもらう際に、当院発行の検査結果用紙も処方箋と一緒に提出して欲しいことを伝える。
- ・ 血液検査の結果に応じて、随時 CKD シールを更新する。

#### ② 薬剤師が行うこと

- ・ 患者のお薬手帳表紙に貼付されたシールを確認する。
- ・ シールに記載されている日付を確認し、記載から概ね半年が経過していたらステージに変更がなくても検査値を確認した日付をシールに記載する（毎回の貼り換えは不要だが、日付を書き換えることにより見づらいなどの理由による適宜貼り換えは可。報告は不要。）
- ・ 薬剤師は、腎機能を考慮し、薬剤選択や用法用量・投与間隔等の処方鑑査を行い、必要に応じて疑義照会を行う。
- ・ 血液検査の結果を来局時に持参した場合、CKD シールと血液検査の結果が異なっていれば、随時 CKD シールを更新する。（北見赤十字病院の医師の許可不要）
- ・ お薬手帳等の更新時は、CKD ステージを記載した CKD シールを新しい手帳に貼る。
- ・ CKD シールが劣化し見づらくなった場合は、CKD ステージを記載した新しいシールを古いシールの上に貼る。
- ・ CKD ステージの変更があった場合（ステージが良くなった場合も含む）、CKD シールを貼り替える。医療機関名を記載する欄には、「北見赤十字病院（〇〇薬局）」のように貼り替えた薬局名を記載する。（図 1 参照）



図 1

- ・ CKD シールの更新を行った場合は、可能であればトレーシングレポート（服薬情報提供書）にて北見赤十字病院へ報告する。
- ・ トレーシングレポートの提出は現行の運用で行うが、FAX の場合は 0157-26-9632（北見赤十字病院薬剤部）に送信する。

#### 4. 患者への説明（重要）

慢性腎臓病であることを告知するためのシールではなく、医薬品の適正使用に用いることが目的のシールであることを説明する。説明時には専用リーフレット（慢性腎臓病とCKDシールについて：北見薬剤師会作成）を使用することが望ましい。

#### 5. 腎機能の評価と薬剤投与設計の注意点

- ① eGFR は筋肉量が減少している患者（サルコペニアや長期臥床、著しい痩せ型の高齢者など）では高めに推算されることに注意する。
- ② 標準化 eGFR (mL/min/1.73 m<sup>2</sup>) は患者の体格が考慮されていないため、より過量・過小投与になりやすい。標準体型から大きく乖離する患者では、体格を考慮して投与量を検討するのが妥当であり、体表面積補正をなくした個別化 eGFR (mL/min) に基づいた投与量設定が推奨される。（CKD 診療ガイド 2024 には個別化 eGFR の計算方法が解説されている。）
- ③ 腎排泄型薬物は添付文書の腎機能別投与量設定に従って処方するが、添付文書では糸球体濾過量（GFR）と推算クレアチニンクリアランス（Ccr）などが混在していることに注意する。

※腎機能の評価、腎機能による用法・用量、禁忌薬の評価は電子化された添付文書や下記のような資料を参照すること。

- ・ エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン 2023（日本腎臓学会編、東京医学社）
- ・ CKD診療ガイド 2024（日本腎臓学会編、東京医学社）
- ・ 腎機能別薬剤投与量 POCKET BOOK 第5版（日本腎臓病薬物療法学会編、じほう社）
- ・ 日本腎臓病薬物療法学会ホームページ:「腎機能低下時に最も注意が必要な薬剤投与量一覧」

#### 6. その他の注意点

- ・ CKD ステージ分類

|                                          |     |                 |       |
|------------------------------------------|-----|-----------------|-------|
| GFR区分<br>(mL/分/<br>1.73 m <sup>2</sup> ) | G1  | 正常または<br>高値     | ≥90   |
|                                          | G2  | 正常または<br>軽度低下   | 60~89 |
|                                          | G3a | 軽度～<br>中等度低下    | 45~59 |
|                                          | G3b | 中等度～<br>高度低下    | 30~44 |
|                                          | G4  | 高度低下            | 15~29 |
|                                          | G5  | 末期腎不全<br>(ESKD) | <15   |

- ・ 透析患者の場合は G5D と記載。

#### 7. 資料請求方法

CKD シール：北見市保健福祉課

患者説明用リーフレット：北見赤十字病院HP、北見薬剤師会 HP